

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹936-1		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsvakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100062&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎1-4-46メゾン蟻ヶ崎103
訪問調査日	平成22年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様にとって、家に居るような穏やかな生活、メリハリのある生活、個々の気持ちを理解した対応を心がけ、「家庭的で尊厳ある生活環境のなかで、心身の力を活かし、安らぎと喜びのある場として利用者様とご家族の幸せを追求する」この運営理念をスタッフ皆で深く理解し、ご利用者様の幸せ、ご家族の幸せにつなげていけるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

古くからの住民の絆を重視する富竹地区にあるグループホームであるが、世代間交流や地域文化の継承に力を入れ始めている。職員個々の記憶からホームの記録へと情報の集積が図られ始め、またその活用も始まり、利用者の個別ケアに生かされている。管理者がリーダーシップを発揮して、このような新たな取組や体制が整ったものと思われる。事業所の理念を実践に繋げるプロセスの見直しや検討を加えると、さらに質の向上に繋がるヒントが得られると思われる。現在の家庭的な雰囲気を大事にしつつ、介護保険事業所としての体制についての検討は、その一つと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(ひまわり)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念が根つき始め、様々な場面でご利用者のご家族の幸せをつなげることができるか、スタッフ自らが考え、実践につながりつつあります。	理念の共有が徐々に進み、実践に活かそうと努力している。	「利用者・家族にとって、ホームの価値は何か？」など、十分な検討が始まると、質の向上に結びつく新たな実践のヒントが得られると感じる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年以上に運営推進会議に力を入れ、市町村、地域との協力関係が築けており、また様々な地域ボランティアの方と過ごす日々が毎月のようにあります。	地域の子どもたちとの交流や、地域での活動に利用者が積極的に出向いて参加している。また、非常時もお互いに協力し合う関係が構築されつつあり、良い関係を築いている。	世代間交流や地域文化の継承は、今後も継続的な支援を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームや認知症に対する理解を深めていただけるよう運営推進会議、地域行事への参加等、様々な形で伝えていくよう心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年以上に運営推進会議を積極的に開くことが出来、地域、市町村、ご家族との話し合いの場を作ることが出来ています。また様々なテーマを取り上げ、参加者の皆様へ、認知症、グループホーム太陽の取り組み等についての説明や報告をしております。	運営推進会議を活かし始めた。家族・地域・包括支援センターの意見を取り入れたり、施設の取組について説明し地域の理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点、問題点などがあれば、市の担当者との連絡を取り合い、指導を仰ぎ、また運営推進会議の中で様々な議題を話し合うなどサービスの向上に取り組んでいます。	運営推進会議にて、様々な議題を話し合い、相互の協力関係を築くような取組が始まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等も行い、グループホームとしての身体拘束について玄関の施錠含め、行動、気持ちの拘束等の理解を行い、ケアに取り組んでいます。	身体拘束等をしない支援のありかたについて、研修を行い実践に活かしている。権利擁護の面から、「虐待とはなにか？」と探っていくと、多様な支援場面に活かせると思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等様々な場面で虐待を取り上げ、事業所として、あるいはスタッフ同士が、虐待を見過ごすことの無いよう注意しあうことのできる環境づくりを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員ではないが、管理者、介護スタッフ共に研修を受け、権利擁護に関する制度を理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金等の説明を行い、ご家族の方の不安や疑問点について話し合いをし、同意、理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にもホーム苦情担当、公的苦情場所を記載し、意見をどこに、誰に伝えることができるかを明確にし、また太陽通信、意見投書箱等により伝えやすい雰囲気作りを心掛けています。	家族からの意見をミーティングで検討し、お便りや掲示で回答を公表するなど、相互の意見交流が進むような取組を行なっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の各ユニット会議、サービス向上会議等の中で意見交換の出来る場を作り、また日常の中、何かあったとき等その都度話し合う機会を作り、必要なことは反映されています。	ユニット会議の取組が始まり、職員の意見を聞く体制ができてきた。また、サービス向上会議では事業所の抱える課題についての話し合いがなされ、検討を重ね可能なものは実施にいたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の気持ちや努力等を把握し、適正に評価されており、意欲向上につながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフの力量を把握し、内部、外部問わず様々な研修を受けながら、事業所内で話し合う等の機会を作り、各スタッフの質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会をはじめ各介護サービス種の管理者や運営者と交流を持ち、情報を共有することでサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の書類による情報を元に入所前にホームに来ていただき、お茶を飲みながらスタッフと、他の利用者様との会話などをして雰囲気を見ていただき、不安等を取り除くことができるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、面談時等でご家族の不安等の気持ちを深く理解するよう努め、不安や心配に感じていることを解消する方法を過去の事例や現在のホームの状況を伝えながら、共に考え、受け止め、改善できるよう前向きな話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、また申し込み、面談を行う際、できるだけ細かい情報を頂き、その後ご利用者様に何が 필요한のか、どんな心配事や悩みを持っているのかなどを確認し、その時々状況に応じて対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、ご利用者様の意思や尊厳を意識し、常に会話を多く持つことにより、職員の一方向的な思い出の指示や行動を控え、より良い関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時、スタッフはご利用者様の状況を話すなどご家族様とのコミュニケーションを大切にし、また管理者も病院との連携による身体状況等情報を共有し、ご家族、ご本人の考え、気持ちを大切に信頼関係の構築に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様によって差はあるが、ホームに来てくださる友人、知人の方々との関係は継続されており、また馴染みの場所へドライブへ行き、懐かしさを感じてもらえるような支援に取り組んでいます。	利用者に差はあるものの、利用開始前の関係の維持・継続については、積極的に支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性についてスタッフは情報を共有し、ご利用者様同士、またはスタッフが一緒に交わりながら孤立しないよう努めています。またテーブル席等にも配慮し、関係作りを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたご利用者様、ご家族様とは面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活、会話の中から、ご利用者様の希望や意向を把握し、日々の生活や行事等の中で計画し、実施できるよう努めています。	日々の関わりのなかで、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意思の疎通が困難な利用者については、ご家族や関係者からの情報を得ると共に、より良いケアに向けての研修を計画する取り組みが始まった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の背景を理解し、生活の中で発見したこと、ご本人の思いや家族の思いを皆で共有できるようファイルにし、いつでも確認できるようにしてあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事や排泄、レクリエーションや生活の中での役割等一人ひとりの過ごし方を観察、把握を行っています。またそれらの情報を記録として残し、スタッフ皆で共有できるよう努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、医師等からの情報をケアマネ、管理者を中心に会議の中で介護スタッフと話し合い、モニタリングを行い、現状にあった介護計画の作成、実施に努めています。	日々の関わりのなかで本人の思いや意見を聞き取り、家族・関係者の意見を交えて、介護計画書が作成されている。また、ミーティングにおいて定期的に評価・見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	安全面、喜び、役割等のご利用者様の“発見”は記録に残し、いくつかの記録書式を使用し、スタッフ皆で共有できる仕組みづくりに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族様の状況により、ホームで支援できることはできるだけやらせていただき、また生活保護者等に対する柔軟な対応を行なうことも社会貢献の一環として捉えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中での交流(あいさつや会話)、お茶のみサロン等に呼んでいただき、また地域のボランティアの皆さんと1日を過ごしたりと、地域の温かさを感じることもできる生活に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族の納得の下にかかりつけ医との24時間対応、往診等協力体制を築き、また専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制に整えています。	利用者・家族の納得の下に、かかりつけ医との24時間対応や往診などの協力体制を築き、状況に応じて適切な医療を受けることができる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、365日の体制でご利用者様の状況変化に対して相談、受診等の対応ができる体制です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者様のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前の本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の状況変化等によりご家族との話し合いの場を設けたとき、ホーム管理者又は連携医師と話し合いをし、今後の方向性を相談するなどの対応をしています。	重度化に伴う、意思確認書・対応指針を定めており、ご家族・医師の意見に配慮した支援計画を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な非常事態に備えて、連絡手当て等の書類マニュアルを整え、訓練、研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応は昼夜の避難訓練等を含めて研修を行い、迅速に行なえるようにしています。また運営推進会議等のなかで地域の方々に理解、支援していただけるよう取り組み、地域の消防団との連携を強化していけるよう検討中です。	運営推進会議の議論から、地域の消防団等への働きかけが始まった。非常災害時の避難場所としてホームを提供するなどの呼びかけも行っており、協力関係が構築されるものと思われる。	避難訓練等の計画は地域住民の参加も検討するなど、さらに発展させる取組を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳」を大切に、日常の中で、声かけや誘導時等の対応としてご利用者様の立場に立ったケアを大切にしているが、声のかけかたが友人口調になるときも稀にあります。	日々の関わりにおいて、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのない対応がなされ、利用者の立場に立ったケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当たり前の生活の中で、個々の生活リズムを大切にされたケアに取り組み、スタッフペースではなく、ご利用者様のペースを大事に、ご利用者様の希望や気持ちを大切に感じることのできるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各スタッフがその人らしさを追求し、ご家族の要望をきき、出来る限り、ご利用者様のペースを大切に、希望に添えるよう対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ(髪型、つめ等)や毎日の服装にも注意し、ご利用者様の意向に沿った、その人らしい服装、活動を考えられています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に調理(包丁使用や、野菜などの皮むき、配膳等)、洗い物などできることを一緒に行ない、また菜園による収穫から食の喜びにつなげるといった取り組みにも力を入れ、食事、役割の喜びや楽しみを感じていただけるよう努めています。	日々のメニューは利用者と相談して決め、職員の見守りの下に、調理・盛り付けを行っている。利用者の気持ちを大切にしており、職員が進めることもなく利用者同士で助け合い下膳などもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日3食分を記録に記載し、また水分補給は尿疾患、体調不良等状況によって個々のご利用者様に応じて必要なことを記録し、栄養、水分のバランスを確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施し、介助が必要な方には介助を行い、自立されている方にも見守り、確認は行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を行い、尿意、便意のない方でもトイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツの中の不快感を無くすよう取り組んでいます。	一人ひとりの心身の状況の問題点を解決しながら、排泄の時間や習慣を把握して、タイミングを見計らって誘導する事により、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜類を多めに取り、また様々な飲み物を用意することで水分補給を考え、ご利用者様によっては医師との相談もなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に合わせ、希望、タイミングを合わせ、入浴を楽しんで頂けるような声かけ、誘導、入浴方法に努めています。	利用者ごとに個別的な対応をして、ゆったりと安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様それぞれの生活パターンにあわせ、必要に応じた睡眠が取れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず服薬したことを確認することの徹底、薬が変更した時は様子観察の徹底を行い、ご利用者様の状況変化を察知するよう心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や毎日の日課の中での役割、散歩などメリハリのある生活を行ないながらゆっくり話を聞くなど、小さな喜びを大切に取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、畑、買物、日向ぼっこなど日々の生活の中で外に出る取り組みを行っています。	年間の行事に外出の機会が多く計画されており、個々の利用者の希望を確認している。また、外出の際の食事は、好評を得ている。	外部との施設内交流の機会の多様化を図るなど、外出を希望されない利用者への配慮・取組を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご協力のもと、小額のお金をご自分で持ち安心される方もおります。「使う」ことを今後支援できるよう体制構築に努めます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えにより、電話をかけ、ご家族などと話し、声を聞き安心できるよう配慮し、葉書などはご本人様と一緒に読み上げご家族、ご友人からのお手紙を楽しんでいただくよう配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部、個室等の温度調整を適正にコントロールし、季節にあった飾りや花を皆様に楽しんでいただけるよう工夫しています。	共有スペースには、季節感を感じる飾り付けが行われている。利用者と職員が一緒に行う余暇の時間は穏やかに過ごすことが可能な雰囲気を感じる。	利用者を取り巻く生活環境について、リスク検討の必要を感じる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では小上がり、ソファなどがあり、各々の居場所でくつろぐ場面が見られ、また玄関先にも椅子を設置し、外が気になる方、1人になりたい方等にも配慮し活用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族様との相談の中で、居室空間は各々の大切なもの、また日常生活品や写真などを飾り、ご利用者様が自分の部屋であると安心できるよう配慮しています。	利用者個々に差を感じるが、本人が大事にしているもの、慣れ親しんだもの、思い出の品などが飾られ、安心できる居心地の良い空間となっている。	ご家族の協力をさらに進めるなど、全員の居心地の良い空間作りを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の「できること」と「危険なこと」を理解し、ご利用者様の様子観察をしっかりと行なうことで安全と自立のバランスを保つよう努めています。		